

第1章. 美濃市の景観

1. 美濃市の景観特性

美濃市は、奥長良川県立自然公園に含まれる緑の山々と長良川や板取川などの清流に恵まれた豊かな自然景観、長い歴史のなかに育まれた伝統文化を背景に社会経済活動の中心として繁栄してきた目の字と称される伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区という）を含む市街地景観を有しています。その豊かな自然の恵みから、市の北中部では河川に沿って山々に囲まれた田園集落である農山村景観が形成されています。市の南部では低地に広がる田園とともに、東海北陸自動車道などの交通の結節点が形成されており、新興住宅地や工業団地など新しい美濃市の景観が形成されています。



(1) 景観類型別の景観特性

景観類型別からみる美濃市の景観特性は次の通りです。

《 自然型景観 》 -----

山なみ景観

美濃市の北端に位置する瓢ヶ岳をはじめ、1,000m級の山岳が連なる奥山、天王山や誕生山などの市街地・集落からほど近い里山により、市域を取り巻くように山なみ景観が広がっています。

緑の山地は山頂が円錐ではなく円弧となり、柔らかな山なみの特徴ある景観を有しています。



河川景観

市域の中央を南北に蛇行しながら流れる長良川と、それに市域西北から注ぐ板取川をはじめとする支流の流れは雄大な景観が形成されています。その河川には美濃橋のような地域のシンボルとなる橋梁があり、堤防沿いには景観の軸を強調するように桜並木が、河川景観を演出しています。



《 歴史型景観 》 -----

歴史文化景観

市内には文化財、史跡、神社仏閣などの歴史的な景観、花みこしなどの伝統行事の文化的な景観が地域の手で大切に守られています。かつては和紙問屋などの商家が並んだ「うだつの上がる町並み」は、平成11年に重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。今も商人文化が息づく歴史的な町並みは美濃市の代表的なまちのイメージをつくっています。



《 居住型景観 》 -----

田園集落景観

長良川や板取川の豊かな水に恵まれ、市内には山間部、丘陵部、平野部にわたり緑豊かな農地が形成されています。その周囲には水路や農道が走り、そして集落の佇まいは日本の原風景として田園集落景観がつけられています。農山村の景観は農業が営々と持続するたくましい暮らしが感じられるとともに、山なみや河川などの自然景観と工業地や市街地景観との緩衝的な役割も果たしています。



ものづくり景観

美濃和紙をつくり、全国に広めてきた「ものづくり」の伝統は、今も継承され、地場産業として集落のなかに「ものづくり景観」として残っています。蕨生地区では和紙づくりの工程である「こうぞの寒ざらし」や「板干し」の風景とともに、山並みに囲まれた落ち着いた集落により風情ある景観が漂っています。



工業地景観

美濃市の南部では東海北陸自動車道と東海環状自動車道の交通の結節点が形成され、美濃テクノパークなどの工業団地などの新しい景観がつくられています。工場や事業場などの敷地境界部に植栽を施すなど、周辺の自然や農村などと調和した景観が形成されています。



市街地景観

伝建地区を中心とした既成市街地の周辺に新しい市街地が形成されています。緑豊かな街路の沿道に整然とした住宅地景観がつくられています。



沿道景観

市の北中部を走る道路は河川のうねりや山並みを縫うように展開しています。沿道からの眺めは山並みや河川が連続する景観となり、サイクリングや散歩道として快適な沿道景観が形成されています。

市の南部では美濃インターが美濃市の玄関口となっており、商業地などの賑わいある沿道景観となっています。



《 眺望型景観 》 -----

眺望景観

市内には小倉山からの眺望、長瀬橋や山崎大橋などの橋上や橋のたもとからの河川や山なみを見通す眺望など、幾多の景観ビューポイント（眺望地点）があります。



2. 良好な景観形成の基本理念および目標

《 基本理念 》

**自然と歴史文化の景観を守り、
こころのゆとりを育む美濃らしい景観をつくり、
次世代につなぐ**

美濃市は清らかな水と緑濃い山々に囲まれた多自然居住地域であり、この自然環境の中で守り育てられた美濃和紙、歴史のある町並み、祭りなど誇るべき伝統文化が美濃市らしい景観の特徴となっています。このような自然と歴史文化の美濃市らしい景観を守り、育て、そして「こころのゆとりを育む」景観を創出し、次世代へと手渡ししていくために、上記のような基本理念のもとに景観形成を推進します。

《 目 標 》

景観づくりを通じ、人と人のつながりや交流が生まれるまちとする

基本理念を踏まえ、美濃市の景観形成にあたっての目標を上記のように設定します。

景観法の基本理念にもうたわれているように景観形成には市民、行政、事業者の3つの連携が重要です。その3つの連携を図っていくためには、まず美濃市の景観を皆で考え、誇りを持つことが重要であり、そして美濃市らしい景観づくりを一体的に進める中で市民、行政、事業者のつながり、住民同士のつながり、住民と来訪者との交流が生まれ、賑わいや潤いあるまちを目指していきます。

このような景観形成の基本理念や目標のもとに美濃市総合計画将来都市像である「住みたいまち訪れたいまち 美濃市」の具現化を目指していきます。